

## 名古屋大学附属図書館情報リテラシー基準

### ◆名古屋大学附属図書館における情報リテラシー教育の目標

名古屋大学附属図書館では、教養教育、専門教育において学生が主体的でアクティブな学習者となれるように、教員と連携し学生の情報リテラシー能力向上に努める。

そのプログラムの企画及び実施のために、国立大学図書館協会「高等教育のための情報リテラシー基準（ドラフト 2.1）」における情報リテラシーの定義及び情報リテラシー基準を参照しつつ「名古屋大学情報リテラシー基準」を策定する。

### ◆情報リテラシーの定義

情報リテラシーは、情報が必要なときにそれを認識し、計画的に情報を収集、評価、整理、管理し、情報を活用して効果的に発信することができる能力である。

なお、類似の概念として、ICT リテラシー、メディアリテラシー、ビジュアルリテラシーなどがあり、これらは扱うメディアと取り組む視点の違いにより独自の領域を持つ。

### ◆情報リテラシー基準

情報リテラシーを身につけた人は、次のフェーズからなるプロセスを経て情報探索行動を行う。これは必ずしも直線的な過程を取るものではなく、いくつかのフェーズを往復しながら進んで行き、最後の創造的活用・発信から新たなニーズ・課題の認識へと繋がる円環を繰り返していくことになる。それぞれのフェーズで求められる能力は、置かれている環境や情報探索者の保持する能力によって違い、次第に高いレベルへと移行していくことになると考えられる。

#### 第1フェーズ 情報ニーズ・課題を認識する。

情報ニーズを明確に示すことができ、必要となる情報の範囲を具体的に定めることができる。

- 1.1 課題を正しく認識する。
- 1.2 課題に対処するために必要となる情報を認識する。
- 1.3 現時点で持っている情報を認識する。

#### 第2フェーズ 情報の適切・効率的な探索を計画する。

情報ニーズを満たす情報を経済的、合法的、社会倫理的に適切で、かつ、効率的に探索する計画を立てることができる。

- 2.1 一般的に得られる情報の種類や特徴を理解する。
- 2.2 情報がどのように生成し、流通するかを理解する。
- 2.3 求める情報へのアクセスの方法及び入手を助けるサービスを理解する。
- 2.4 情報を探索する際の適法性、社会倫理への適合及び経済的合理性を理解する。

### 第3 フェーズ 情報を適切、効率的に入手する。

情報を入手する手段を活用して、情報ニーズを満たすために必要な情報を適切、効率的に入手することができる。

- 3.1 図書館や情報入手を手助けするサービスを効果的に利用する。
- 3.2 情報の種類に応じて、適切なアクセス手法や検索ツールを用いる。
- 3.3 必要な情報を探することができる検索スキルを身に付ける。
- 3.4 情報を正しく読み、情報ニーズに照らし合わせて取捨選択する。

### 第4 フェーズ 収集した情報を評価・分析し、整理・組織する。

情報ニーズを満たす情報を評価・分析し、適切なツールを使用して情報を整理・組織することができる。

- 4.1 収集した情報やデータを信頼性、関連性、正確性などの点から評価・分析する。
- 4.2 情報をそれに適した管理ソフトウェア等のツールを用いて適切に整理、記述し、活用できるように組織することができる。

### 第5 フェーズ 知識体系を再構築する。

情報を批判的に自らの知識体系に組み込み、知識体系を再構築することができる。

- 5.1 情報を自らの知識体系に照らし合わせ、批判的に組み込む。
- 5.2 新たな情報を組み込むことで、自らの知識体系を再構築する。

### 第6 フェーズ 情報を創造的に活用し、発信する。

情報を合法的、社会倫理的に適切にかつ創造的に活用し、発信し、情報を用いたコミュニケーションを行うことができる。

- 6.1 情報を利用する上で必要な法的な知識を持つ。
- 6.2 情報を発信する対象やコミュニティに相応しい形式を理解する。
- 6.3 情報を発信するために必要なスキルを持つ。